

はじめに——「教師がつらい」と思ったときに

本書『やり方ひとつでこんなに変わる！ 20代教師のためのクラス回復術』を手に取っていただき、ありがとうございます。本書のタイトルを見て手に取ってくださった先生方は、今、授業や学級経営で困っていたり、これからのことでの不安に思っていたりするのかもしれません。本書は、少しでもそんな先生方のお役に立てたらと思って書かせていただきました。

僕も、教職についてからの15年間、さまざまな失敗を繰り返してきました。新任のときには、仕事が何もわからず、ただただ思いつきで授業をするだけの毎日でした。そして、仕事がよくわからないので、さっさと家に帰ってしまう。その上、校外学習の集合時間には遅刻をする。さらには、個人懇談の最中にうつらうつらしてしまう。それは、まあ、ひどいひどい新任教師でした。

そんなひどい教師でも、何とかやってこられたのは、「桔梗さん、1年目は、休まなければ合格や。とにかく、休まずに頑張ろう！」という先輩の言葉でした。「そんなの簡単や！」と単純に思った僕は、「休まなければいい」ということだけを真に受けて元気に学校に行き続け、失敗しては先輩に叱られ、子どもたちには励まされ、保護者には支えられて、何とか乗り切ることができました。

しかし、最近の教育現場は、「休まなければ合格」では済まない現状があります。教育に対する要望が多様化する中、一人ひとりの子どもへの対応、保護者からのクレームへの対応だけで手いっぱいとなり、授業の準備に手が回らず、授業や学級がうまくいかない。その悪循環に陥らないよう、絶対に失敗できないという雰囲気があります。

本書では、「教師力」として、「**共感する力**」と「**振り返る力**」を挙げています。これは、失敗を繰り返す教師だからこそ、磨ける力であるといえます。20代のうちからすべてを失敗なくやっていくことはできません。むしろ、若いときにこそ、うまくいかないことをたくさん経験することが

大切なことです。そのことによって、子どもたちをより深く理解しようとしたり、同僚にもっと相談しようしたりすることができるのです。

もし、「失敗が怖くて、学校に行きたくない」と感じるようなことがある先生は、本書のChapter 2、Chapter 3だけでも読んでいただいて、同じような失敗をしてきた人間が、どうやって立ち直っていったのかを参考にしていただけると幸いです。

Chapter 4では、「教師力」の1つとして、「リセットする力」を挙げました。たくさん失敗をして、くよくよして、周りに頼って、ということを繰り返しつつも、子どもの前では切り替えて元気になれる力です。これも、さまざまな失敗を経てこそ、自分なりに磨くことができる力です。

本書を書いている最中に、僕がはじめて卒業させた6年生の三人が教職に就きました。「桔梗先生の姿を見て、教師を目指すようになった」と、お世辞でもうれしい言葉をいただきました。失敗ばかりで、ときには怒鳴りつけたり、理不尽なことを言ったりする教師である僕から、何を学んだのか……。それは、「とにかく元気に笑っていた」ということでした。

小学生の子どもたちにとって、保護者以外にもっとも身近で働く大人は、教師ではないでしょうか。とにかく元気で、子どもたちの前で楽しそうに仕事をしている。それだけでも、まずは教師として立派に役目を果たしている。僕は、そう強く感じています。

本書を通して、

「〇〇さん、大丈夫！ みんないっぱい失敗しているよ。何でも聞いてくれたらオッケー。だから、とにかく笑って元気にやろう。教師ってたいへんやけど、めっちゃ面白いで！」

そんなメッセージを伝えることができたら幸いです。

最後になりましたが、田中君、佃君、戸田君。君たち三人に相談されたらどう答えるかを考えて、この本を書くことができました。ありがとう。そして、ともにがんばりましょう！

2016年9月

桔梗友行

contents

はじめに——「教師がつらい」と思ったときに 3

Chapter
1

クラスが うまくいかなくなったとき

- ① クラスがうまくいかないと感じたら 10
 - ② クラスをまとめる3つの教師力 12
 - ③ クラスをまとめる3つの教師力①共感する力 14
 - ④ クラスをまとめる3つの教師力②振り返る力 16
 - ⑤ クラスをまとめる3つの教師力③リセットする力 18
 - ⑥ 教師に向いていないと考える人こそ教師に向いている 20
 - ⑦ 力は鍛えられる 22
- Column1 校内若手勉強会 24

Chapter
2

クラスの子どもとつながるために ——共感する力がカギになる！

- ① 失敗しながら共感する力を上げていこう 26
- ② 0点からの加点法 28

contents

③	相手の中の「自分」に話しかける	30
④	「困った子」ではなく「困っている子」がいる	32
⑤	子どもに嫌われてはいけません	34
⑥	「できない子」「わからない子」がいるおかげで	36
⑦	子どもの学習タイプを知る	38
⑧	子どもの気持ちを引き出すオープンクエスチョン	40
⑨	子どもに感謝の気持ちをもつ	42
⑩	一人ひとりとつながるシステムづくり	44
⑪	子どもとどんどん遊びましょう	46
Column 2	保護者になってわかる	48

Chapter
3

クラスの状態を把握するために ——振り返る力をつけよう!

1	くよくよしながら振り返る力を磨こう	50
2	そもそも何を振り返るか	52
3	板書を記録してみよう	54
4	「見るノート」で子どもの様子を振り返る	56
5	作文のコメントで振り返る	58
6	学級通信を活用して振り返る	60

⑦ 「なぜ?」と考える癖をつける	62
⑧ わからないから聞く	64
⑨ 同僚と何を対話するか	66
⑩ 対話の中で本質を見つける	68
⑪ 授業を見せてもらおう	70
⑫ 振り返りをまとめる機会をつくる	72
Column3 両極の教師から学ぶ	74

Chapter
4

教師が変わるとクラスは変わる ——リセットする力がクラスを変える！

① リセットする力を上げて、元気に子どもの前に立つ	76
② まずは教師が見本になる	78
③ 教師は空気清浄機	80
④ 事前に「最悪の事態」を想定しておく	82
⑤ 笑顔で指導するための怒りのコントロール	84
⑥ リフレッシュのために趣味の時間を	86
⑦ やることに優先順位をつける仕事術	88
⑧ ルーティンをつくる	90
⑨ 「初心忘るべからず」というワザ	92

contents

⑩ 教材研究はワクワクするために.....	94
⑪ 「あの子のため」にがらりと授業を変える.....	96
⑫ リセットするための片づけ・掃除.....	98
Column 4 子どもたちから学ぶ.....	100

Chapter
5

教師であり続けるために ——学び続ける教師になる！

① できない今まで、いいわけはない.....	102
② 「子どもが好き」だけではダメ.....	104
③ 教師が「師」をもつこと.....	106
④ 子どもの姿から学ぶ.....	108
⑤ 人格の完成を目指して.....	110
⑥ 失敗したことを笑って話せる職場に.....	112
Column 5 レッツ飲みニケーション.....	114



1

クラスが うまくいかないと 感じたら

新任で3年生を受けもったのですが、3学期になっても授業も学級経営もうまくいかず、毎日何かしら失敗をしてしまいます。そして、心配や焦りで仕事が進まず、くよくよするばかりで、不安がはち切れそうです。それでも、何とか毎日休まずに、学校に行くことはやめませんでした。



●毎日学校に行くだけで、まずは合格！

クラスがうまくいかず、しんどい1年を過ごす。そんな時期が僕自身にもありました。そんな僕を救ってくれたのは、先輩教師が教えてくれた「学校に来ているだけで、まずは合格！」という言葉です。

授業も学級経営もたいへんなことばかり。それでも、子どもたちの前に立つことができているからこそ、日々悩み、教師も成長できるのです。まずは、1年間学校に通い続けた自分をほめてあげてくださいね。

●相談できるメンターを見つけよう

何よりも大切なのは、困ったときに相談できる相手がいるということです。現場をよく知る同僚には具体的な相談ができますし、前任校の教師、サークルやセミナーで出会う他校の先輩教師なら、技術やネタなどのアドバイスももらえるでしょう。また、趣味の合う人や家族、友だちからは、教師とは違う視点で助言してもらえるかもしれません。相談できる人がいることが、何よりなのです。

ただただ不安で何もできないと…



誰でもいいから相談をすると…



【ワンポイントアドバイス】

「困っている」ということを一人で抱え込まずに、同僚に、先輩に、友だちに、遠慮なく相談しましょ。もし、そんな人が誰もいないという人は、僕にメールをくださいね！ tomkick65@gmail.com